

# はたらく、が変わる。Well-Being Office

～ コミュニティ設計 × ウェルビーイング  
(4つの空間設計) (6つの空間設計) で実現する、新しいオフィスのかたち～



# Community Office・Community Work Design

## 「人間」中心のオフィス、寄り添う空間設計

### コミュニティオフィス・コミュニティワーク デザイン

コロナ禍以降、働き方は、未曾有の変化を遂げています。

2020年以降、企業が先行き不透明で変動が激しいビジネス環境にいる中で、「いつ、どこで、なぜ、どう働くか」ということも今までの常識を超えて大きく変化しています。

現在、多くの企業がハイブリッドワークへと移行しています。そのため多くの人が、対面ではなく、画面越しのコミュニケーションに遥かに多くの時間を費やしています。これは間違いなく、働き方を変えた最大の要因であり、そこで働く人の行動や心理、オフィス環境に大きな影響を及ぼしています。対面から画面越しへ。この劇的な変化は、職場での行動規範や組織風土、ひいては従業員ウェルビーイングや仕事の成果を大きく左右しています。またAIの導入によって、業務の自動化や効率化が加速し、ワーカーの役割や求められるスキルにも変化が生じ、働き方に大きな影響をもたらしています。

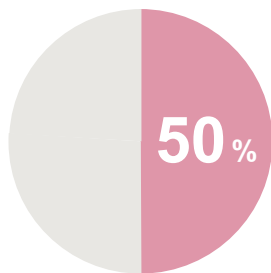




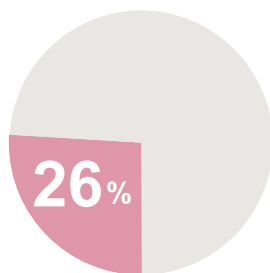
**課題：**画面越しが「集中力」を途切れさせる。

**解決：**注意力散漫を回避できる空間設計をすることが必要です。

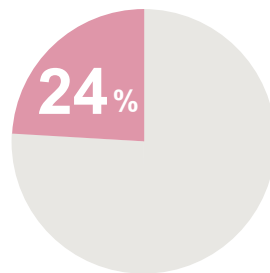
画面越しのコミュニケーションの増加によって、会議に参加する際の行動も場所も変化しました。



自席で会議に参加



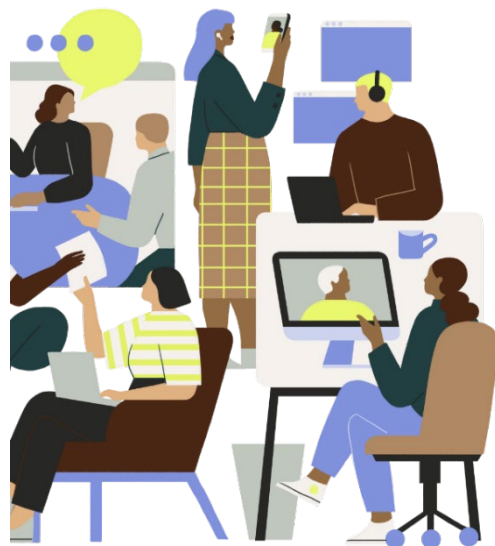
会議室に移動して会議に参加



個室に移動して会議に参加

以前のオフィスにおける騒音の最大の要因は周囲の会話でした。そして、オープンレイアウトでのビデオ通話やオンライン会議がこの問題をさらに悪化させています。例えば、隣の席の同僚が顧客とのビデオ会議を行っている最中に、別の社員がグループディスカッションを始めると、周囲の複数人が集中力を失い、作業効率が著しく低下します。集中力欠如は仕事のパフォーマンスや健康に悪影響を及ぼします。集中力を高めることで、複雑なタスクに対する思考力や判断力が向上し、難易度の高い業務にも迅速に対応できます。このことから注意力散漫を回避できる空間設計（吸音パネル、サウンドマスキングなどで騒音を軽減）が必要になります。

私たちは、視覚や聴覚など周囲の刺激を通して空間を認識しています。この刺激によって行動が誘発されるため、「空間」は重要な役割を果たします。オフィスには集中を妨げる要素が多く存在します。そのためパーティションを設置したり、観葉植物などを置くことで、周囲からの視線や音を遮り、空間を仕切って囲むことでプライバシーや心理的安全性を確保できます。また、誰かが背後から近づいてくる不安を感じることなく、安心して、リラックスしながら仕事に集中できるようになります。



**課題：ワークライフバランスが崩れ、従業員のメンタルヘルス問題が発生**

**解決：「人間」中心の設計、寄り添う「場」の環境構築が不可欠です。**

68%

仕事のペースと量に負担を感じている

46%

仕事に消耗しきっていると感じている

出社とリモートを組み合わせたハイブリッドワークがもたらした柔軟な働き方は、ワークライフバランスを改善する大きなチャンスと思われてきました。しかし、過去3年間の仕事の生産性は維持されつつも、ワークライフバランスに対する満足度は下がっています。68%の人が仕事のペースと量に負担を感じ、46%が仕事に消耗しきっていると感じています。その変化のスピードに管理職も含めた全従業員がストレスや孤立感を抱えています。ハイブリッドワークの浸透も日々のリズムやペースを変えた要因のひとつです。膨大な量の会議と業務過多は、燃え尽き症候群の一因となっています。対面よりもビデオ通話など画面越しのやり取りが増えネットだけで人間関係が深まらない状態が続くと孤立感や不安を抱きやすくなります。

今後のオフィスは「人間」中心に設計され、従業員一人一人に寄り添う「場」として位置づけられ、個性が尊重され、会社に対する帰属意識や信頼性を育み、従業員が満足度を高めながら仕事に没頭し、成果を生み出せる環境の構築が必要になります。



**課題：AI導入で働き方が変わってきています。**

**対応：コラボレーション、トレーニング、柔軟性**

### **コラボレーションスペースが必要。**

各担当者がチームとして連携し、適切な質問事項やガイドラインの作成、質問応答の検証などAIの出力に対してフィードバックを行うことでAIの学習精度が増していきます。今後、こうした共同意思決定と透明性を促すチームでのコラボレーションスペースのニーズが高まっていきます。

### **スキルアップの向上のためトレーニングスペースが必要。**

従業員のAIスキル向上（プロンプトをAIに正確に伝えるスキル）を支援するには、トレーニングや仲間同士の学習スペースの設置と従業員自らが学ぶ組織文化の構築が鍵になります。「需要の急増と労働力不足により、多くの企業は経験に基づく雇用から潜在的雇用に移行し、トレーニングをして有能な候補者を育てることを余儀なくされています。」

### **柔軟性を考慮したスペース設計が必要。**

テクノロジーの進歩が加速する中で、オフィスの「柔軟性」はいまや不可欠です。AI導入により業務の自動化や効率化が進む一方、人が担う業務は創造性や意思決定など高度化しています。その結果、固定席中心のレイアウトではなく、固定席を持たないフリーアドレスやプロジェクトごとにチーム編成されるプロジェクト型の働き方が増えています。また情報量が増える中、集中できる環境づくりも重要になり可動式パーティションや吸音性の高い家具、個別ブースなどは、業務効率を高めるための重要な要素です。（チーム編成やプロジェクトの変化に応じてレイアウトを変えられることが求められます。）



## コミュニティオフィス・コミュニティワークの4つの空間設計

### 01

#### 《ソーシャルハブ》

・ ・ 人々の情報が集まる社交の中心地 ・ ・

オフィスコミュニティの核となる「ソーシャルハブ」。  
人を引き寄せ、対話を促し、人と人の絆と信頼を築きます。

仕事において、多くの人が感じているのが「人とのつながり」の欠如です。同僚と直接顔を合わせるよりも画面越しのコミュニケーションの方が長く、そのことが従業員ウェルビーイングや仕事の質に影響を与えています。「ソーシャルハブ」は、リアルな交流を活性化し、自然に集い、偶発的な出会いや交流を増やします。組織の全員が集い、コラボレーションする中心的なハブとして機能させるスペース。この多機能スペースには、カフェ、テクニカルサポート、資料センターなど、共有アメニティやサービスなどの機能も含まれます。



### 02

#### 《ホームベース》

・ ・ 自分たちの居場所 ・ ・

個人とチームの拠点となる「ホームベース」。  
個人の集中ワークとチームメンバー同士の絆の両方をサポートし、チーム力を高めます。

個人ワークとグループワークのバランスに加え、メンバー同士の交流やコラボレーション、心身のリフレッシュなどが考慮されているスペース。個人とグループの成果を最大限に高める方法として、さまざまなレベルでのプライバシー確保や自分たちの居場所。プライバシーと快適さを選択できる個人スペースや、1対1や少人数で即座に集まり、進捗状況を共有できるチームスペースなどが含まれます。





**人が集い、共有し、ブレストし、コラボレーションする  
多種多様な共有スペース。創造性を促し、イノベーションを生み出す「場」です。**

コラボレーションと創造性は、さまざまな専門知識を持つ人々が交流し、実験しながら共創することで威力を発揮します。今日のコラボレーションは、リアルとリモート両方の参加者が混在するハイブリッド型が多く、このことを意識したコラボレーションスペースの創出が不可欠です。リアルとリモート、参加人数、コラボレーションタイプを念頭に設計され、リアルとリモート両方の参加者にとって公平に会議に集中できる環境を創出します。例えば、席に隣接して個室ポッドなどのプライベートなスポットを配置することで、グループワークと個人ワークを簡単に切り替えることができ、会議やコラボレーションの質を高めます。また、会議前後の短い打ち合わせや会議中に退席しての緊急通話などにも柔軟に対応できるなどです。



**周囲の視線を気にすることなく休息できる「コミュニティ」としての目的地。  
心を癒し、リフレッシュしながらウェルビーイングを管理できる「場」です。**

仕事量が増え、仕事がさらにストレスフルになる中、オフィスでも仕事から離れ、気分転換できる場所が求められています。都市の中の公園は、心身のリフレッシュや自然との触れ合いのための共有の「場」として欠かせません。オフィスでも、人間の多様性や神経過敏症の従業員対策として、周囲の雑音や刺激から解放される静寂な「場」、休息と活力回復の「場」、集中し、深く熟考できる「場」が必要不可欠となっています。しかし、誰もが1人になりたいわけでもなく、他者と交わることで活力を得る人もいます。例えば、都市の中の公園には、屋内と屋外両方で人々がつながる場所が用意されています。



先の画面越しの集中力が途切れる、AI導入での働き方の変化、WEBミーティングの難しさを物理的、スペース的な解決に加えて、もう一つの空間設計がウェルビーイング（肉体面、精神面、社会面で満たされる）です。

「人間中心の設計」

建築は建物主体ではなく住む人主体であり、オフィス構築もワーカー主体で構築することが重要となります。

「ウェルビーイングをオフィスに導入するメリット」

社員の幸福度（ウェルビーイング）が高いと、仕事の生産性も上がることがわかっています。職場での運動設備、食事などは素晴らしい福利厚生であり、重要な要素ですが、幸福感はそれだけにはとどまりません。ウェルビーイングが職場そのものへの介入が最も大きな効果をもたらします。

- ・ワークエンゲージメント向上による生産性、業績アップ
- ・ワークライフバランスが整うことによる離職率低下、人材確保
- ・健康経営の達成

ウェルビーイング オフィスの6つの空間設計

《オフィスにおいてWELL-BEINGを考慮する必要性》

| Well-being                      | ワーカーへの影響                |
|---------------------------------|-------------------------|
| ①楽観性：<br>「なんとかなる」というポジティブな姿勢    | トライ、探求心につながります。         |
| ②マインドフルネス：<br>雑念を離れ、「今、この瞬間に集中」 | 集中し業務に没頭できます。           |
| ③自分らしくある：<br>主体的な行動             | 自由な表現、アイデア表現が共有できます。    |
| ④帰属意識：<br>人間関係や「社会的な繋がり」の根幹     | エンゲージメントが向上します。         |
| ⑤意義（明確な目的を持つ）：<br>「目的達成」        | 仕事に持続的なやりがいを感じます。       |
| ⑥活力：<br>「良好で活力ある状態」             | 仕事に対する意欲、パフォーマンスが向上します。 |



過度に不安になるのではなく、新たなアプローチを熱心にトライし、見つけるまで探索しつづけること。

### 《空間設計例》

- どこでどうやって働くのかをチョイスとコントロールをするスペースの提供。
- 仕事をする上で社員がサポートされていると感じるセッティング。
- 開放的なレイアウトを通して環境を可視化することで人間間の信頼性を構築する。

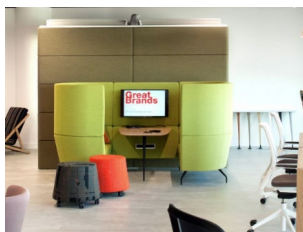
個人やチームが自由にアレンジできる空間を提供することや、ワーカーのリジューネーティブ（集中力の回復）できる場、試行錯誤や思考のための空間を作ること、トライ、探求心を促し、想像力と創造性を刺激し、可能性を広げます。



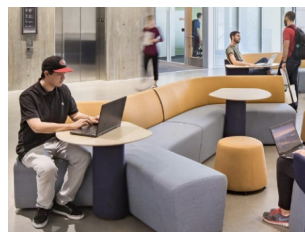
「集中力回復ができる」  
ポジティブ思考のリセット



「立姿勢で作業」  
姿勢を変えて気持ちの切り替え



「こもって作業」  
集中できる環境でじっくり  
と思考、トライする



「ちょっと立ち寄って作業」  
気軽に自由に作業をする

心と身体が一体となって時間を過ぎるのも忘れてしまうほど何かに取り組むこと。

### 《空間設計例》

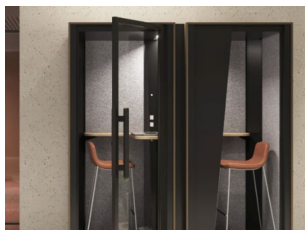
- デバイスを通してではなく他の人と一対一で目を合わせながら対話できるスペースの提供。
- 外部からの邪魔を気が散ったりすることがないスペース、人とつながることができるスペースの提供。

※仕事では3分毎に作業を切り替えています。 →集中できない

11分毎に邪魔が入る（上司、同僚からの話しかけ、電話等）集中が途切れる

→フローの状態に戻るまで25分かかる。

視覚的、聴覚的なプライバシーを確保できる個々の集中場所、1対1の交流、共同作業、そしてチームの集中を促進する多様な環境を提供することで、あらゆる業務において集中力を高めて、注意散漫を最小限に抑えられ業務に没頭できます。



「音を完全に遮って集中」  
意識を目の前の作業に向け  
高い集中力を維持



「視線を隠して集中」  
周囲の目を気にせず作業に  
没頭



「喧騒の中で集中」  
適度なノイズが脳を覚醒さ  
せて集中



「1対1の交流」  
チームで集中し多様なチーム  
タスクを効率的に遂行

## 自分らしくある

従業員は自分のアイデアや価値観を自由に表現でき、企業文化を担い手であると感じられること。

### 《空間設計例》

- 「個」を表現できアイデアを共有できるスペースの提供。
- ホームのような雰囲気のインフォーマルで自由な環境の構築。

個人やチームが、それぞれの働き方に最適な、働く場所や時間、空間を自由に選べるようにすることで、その環境の中で個性を発揮し、アイデアを生み出しやすくなります。



「多人数でも自由に討議」  
参加者全員が視線を交わせることで心理的安全性の確保



「リラックスしながら討議」  
ストレスを感じず、互いを尊重し合え本音や意見を率直に共有



「突発的な打合せ」  
動線上に位置させ直ぐに集まってひらめきアイデア出し



「じっくりとチームで討議」  
外部の干渉が無い部屋の中でメンバーの専門知識・経験を活かす

## 帰属意識 — 他人とつながる

仕事がモバイル化になる中で帰属意識を保つことは難しくなりました。  
コミュニティとしての平等間を生み出し、内勤者はもちろんモバイルワーカーや遠隔にいる従業員が帰属意識を持つこと。

### 《空間設計例》

- 時々出社する従業員のために視覚的に暖かく迎えるようなエントランスデザインをする。
- リアル、リモート両方の参加者にとって公平に会議に集中できる環境構築をすることで効果的なコラボレーションが可能にする家具設置。

同一拠点のチームと遠隔地のチームの双方にとって、直感的でアクセスしやすく、ユーザー同士がつながれるよう設計された空間は、個人的および仕事上のつながりが促進され、コミュニティの一員である感覚、自分を受け入れて大切にされる感覚が帰属意識を向上させエンゲージメントにつながります。



「モニター越しにつながる」  
遠隔地、リアルとリモートがつながる



「プレゼンの準備など」  
チーム内でのプレゼン内容の合意を語ることによりチームへの帰属意識につながる



「少人数で共同作業」  
少人数でメンバーの役割が明確にし、自分の存在意義を実感



「ちょっと確認する」  
相互確認で自分はここに存在していると認められているという感覚を生み出す

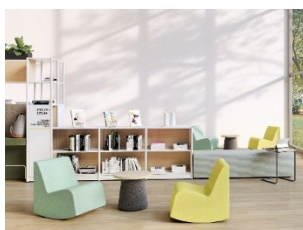
## 意義 ー 明確な目的を持つ

意味ある目的を達成できるように意図的にデザインされたスペースで従業員のパフォーマンスを最大限にする。

### 《空間設計例》

- リアルタイムの情報を表示させるテクノロジーの構築。
- 従業員が人と一緒に生産的に仕事をするために自由にチョイスできる場を構築する。

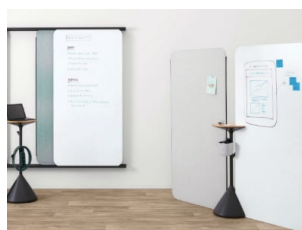
ワーカーは意義のある目標を達成できるように、管理職と部下がフォーマル、インフォーマルを問わず交流できる場を意図的に作り、自然なつながりが生まれることを促すことで、人は何かに貢献をしていると実感でき、仕事への満足度が高まり、仕事に意義を見出すことで積極的に仕事に取り組むようになります。



「ちょっとした打合せ」  
インフォーマルな交流をする



「さっと打合せできる」  
話題の時に時間を置かず  
タイムリーにつながる



「どんどん描いて説明する」  
認識のズレをふせぎ、目的、  
ゴールを確認する



「描いて説明する」  
情報を言語化し思考を整理  
して目的の合意形成をする

## 活力 ー 立ち上がって動く

身体を動かすことは工作中的の心身へ活力を支え、人は動くことでアイデアを表現でき、仕事に対する意欲やパフォーマンスを向上させる。

### 《空間設計例》

- 一日の中で体が動くことを可能にする家具（上下昇降デスク、揺れる椅子など）
- 日光や景観、換気など自然を最大限に取り入れる。

私たちの身体的、精神的、感情的な健康は深く結びついており、全体的に健康であればあるほど仕事、生活において最高のパフォーマンスを発揮できるようになります。そのためには、腰掛ける、くつろぐなど、様々な姿勢を選べるようにし、歩くことを促すことで、身体的・精神的なエネルギーを生み出し、精神を刺激し、注意力と集中力を高めます。



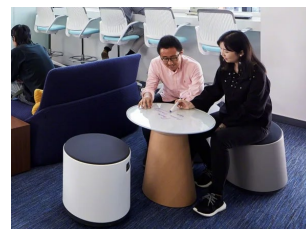
「場所を変えて作業」  
感覚に新鮮な刺激を与え、  
思考をリフレッシュさせる



「ときどき立って作業」  
立位姿勢は自信や前向きな  
気持ちを引き出し、モチベー  
ション向上



「共同作業で電動昇降テーブル」  
作業内容によってテーブル  
の高さを変え共同タスクの  
効率化



「ぐらぐらするツール」  
身体を動かすことで脳が  
活性化しアイデアを生み出す



人と環境にやさしい空間創造 ——  
株式会社くろがね工作所



Homepage



X



Instagram

東京

〒105-0014 東京都港区芝 1-10-13 芝日景有楽ビル  
TEL.03-5439-9111

札幌

〒060-0001 北海道札幌市中央区北一条西7丁目3 北一条第一生命ビル  
TEL.011-281-2373

名古屋

〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 御幸ビル  
TEL.052-253-6985

大阪

〒550-0013 大阪府大阪市西区新町 1-4-24 大阪四ツ橋新町ビル  
TEL.06-6538-1012

福岡

〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金 1 丁目 2-21 W ビルディング渡辺通  
TEL. 092-523-1440